

往復書簡

今回は、梶谷氏（山梨県 ㈱ファーマーズ・リンク）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡2回目です。

拝啓 高木勇樹様

お返事ありがとうございます。暦の上では立春が過ぎましたが、当地ではこの週末、五十センチを超える積雪に見舞われました。十数年ぶりという大雪に、除雪機もない我々は、為す術なくただただ自然の脅威を受け止めざるしかありませんでした。

農業は、自然の恩恵を受けて人間の糧を得る人類最古の産業であると共に、自然の脅威を直に受ける産業でもあります。昨今は、その自然リスクを回避すべく、植物工場が話題になっておりますが、弊職は、自然とともに生き、五感をフル活用させながら、作物の生育を通じて人ととしての感性を磨く農業に魅力を感じております。

さて、「農業界」の「珍種」とのお言葉をいただき、弊職なりに「農業界」と「珍種」について考えてみました。まず、「農業界」について。弊職は、それを語るにはあまりに知識も経験もなく、素人でありますが、素人なりに感じることを申し上げます。とするとすれば、「農業界」には道徳や秩序が欠けているのではないかということ。それは、自然や国土と密接に関わる産業であること、副業としても為し得る産業であることから、政治に利用され、高木様が誤ったとおっしゃっている。これまでの行政による支援の結果なのかもしれない。

弊職は、微力ながら、「珍種」として「農業界」の現状打破に貢献できればと考えておりますが、どの業界でも「珍種」に対する風当たりは強いものです。こと平均年齢が六十五歳以上かつ個人・小規模法人が大半という「農業界」においては、

若い・女性というだけで、まさに「珍種」です。弊職は、これまでも自らの想いを成し遂げる過程において、幾度となく非難や排除の対象となり、その度に悩み苦しみながらそれを乗り越えて来ました。そして、高木様のように、年齢・性別・業界関係なく弊職を応援してくださる「珍種」の皆さまが、弊職を支え、人として成長すべく導いてくださっていることに、心から感謝しております。

弊職は、自らの人間力を高めるステージとして「農業界」を選びましたが、高木様が生涯懸けて「農業界」に関わっていらつしやる想いについて次回聞かせていただければ幸いです。

平成二十六年二月吉日

敬具

梶谷 よしみ （かじたに よしみ）



一九七九年 京都府生まれ
二〇〇三年 立命館大学法学部卒業
二〇一〇年四月 豊田通商㈱入社
二〇一二年 実家に戻り、㈱京都ファーム支援
同年十一月 山梨県(㈱イズミ農園)に就職・就農
農場および集出荷施設管理
二〇一四年一月 山梨県にて㈱J-PAC 山梨設立・代表に就任
㈱ファーマーズ・リンクに社名変更

拝復 梶谷 よしみ様

東京は四十五年振りの積雪を記録した翌週末も大雪となり、残雪の上に積もり外出に難儀しました。

でも農業地帯は西は九州、東は関東各県まで、正に予想外の積雪に大きな被害が出ました。心から御見舞申し上げるとともに復旧の早からんことをお祈りする次第です。

私は五十代に入り、何故か自らの来し方行く末を考えるようになりました。その結果生かされている命の使い方として、六十五歳を区切りに、ボランティアに徹し、この世のすべての人間に公平、平等に与えられている「時間」は、ライフワークのために使い切るとの選択をし、実行に移したのです。

ライフワークのひとつが農業・農村・食料問題に関わり続けるということです。

その理由と心構えですが (一) この問題に四十年余仕事として関わり、その間に得た知識・経験の蓄積を客観的に後世に伝え続けることは、この問題の関係者に対する私の義務である、(二) 私のこれまでの経験によれば、きちんとしたものさしによる客観的事実の発信は必ず誰かが受けとめ、それが大きなうねりにつながる。だから発信し続けることが大事である、(三) このようなことを生涯現役の気概で、常に好奇心をもって現場に学びつつ、毀誉褒貶(きよほうへん)を楽しみながら捨て石という思いで取り組む。

これがお尋ねの「私が農業界に関わっている」

そしてこれからも関わり続ける想いです。

詮じつめて申し上げれば、棺桶に入るとき、生かされている命を、自分のものさしで使い切ったと、自ら心から満足出来るように自分の時間を使ったということなのです。

人世観のようなことになりましたが、結局どんな職業を選択するにしろ、その人間の人世観(生きるものさし)が決定的に重要であるというのが、これまで生かされてきた私の到達点です。

次回貴女のコメントを頂ければと思います。

敬具

平成二十六年三月吉日

高木 勇樹 (たかぎ ゆうき)

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 群馬県生まれ
東京大学法学部卒業農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

農林水産事務次官、二〇〇一年退官
農林中金総合研究所理事長
農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇三年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長
二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長の立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

